

小生産者（小ブルジョアジー）と資本家の共通性

小商品生産者は、彼の利益が、のこりの社会の利益とは反対に、この独占的地位の維持を要求しているのを、感じとっている。そこで彼は、競争をおそれる。小商品生産者たちは、個人的な、また集団的な、ありとあらゆる努力をはらって、競争を阻止し、競争者を自分たちの領分に「はいらせない」ようにし、一定範囲の購買者をもつ小経営主として保障された自分たちの地位を強化しようとしてつとめる。競争にたいするこの恐怖は、小商品生産者の真の社会的本性を浮彫的にあきらかにしているもので、われわれは、これにかんする事実をもっとくわしく研究することが必要だと考える。……………

ナロードニキ経済学者たちは、多数の小農民的営業者が商品生産者に属しているという事実をぼかしておこうとしただけでなく、小農民的経営と大工業とのあいだにはある深刻な敵対関係があるかのようにいう大きな伝説までつくりあげた。この見解がなりたないことは、他のものはおき、さきにあげた資料からも、明らかである。大工業家は、独占を確保するためにはどんな方法でもとることをためらわないが、「クスターリ」農民も、この点では大工業家の肉親の兄弟である。

注) 小ブルジョアは、競争が彼を破滅させることを感じとって、それを阻止しようとする。ところで、小ブルジョアの思想的代表者としてのナロードニキも、まったく同じように、資本主義が彼の心から愛する「基礎」をうちこわすのを感じている。だから彼らは、「予防」したり、ゆるさなかつたり、阻止したり、等々、しようとしてつとめるのである。

第三卷 第五章 工業における資本主義の最初の段階 P342~344

コメント

小商品生産者たちは、個人的な、また集団的な、ありとあらゆる努力をはらって、競争を阻止し、競争者を自分たちの領分に「はいらせない」ようにし、自分たちの地位を強化しようとしてつとめる。大工場主は、階級的利益をまもるためには保護関税制度、奨励金、特権などを渴望しているが、小ブルジョアも、こせこせした手段によってその階級的利益をまもろうとしている。